

### センターに向かって進め その5

英語の長文問題後半設問の配点と、国語の各設問後半の配点は、1問8点である。8点の幅に、最大、2万人ぐらいがひしめくセンター試験において、必ず得点できるところを丁寧に得点しながら、この8点配点を落とさないで得点しているかがセンター試験のカギとなる。

また、マークすべきところを間違えたりせず、あとからマークしようと思って思いのほか時間が早く過ぎて、分かっているのにマークしきれなかったりすることがないことがとても大切なことなのだ。

一つ一つの教科における対策は、各教科の教員の指導の赴くところをきちんと理解し、自分のすべき道を見つけておくと良い。ただし、センター試験は総合力がかぎであることは間違いないので、1教科に偏って、どこかの教科科目に穴があるようなことは避けてほしい。

特に英語のリスニングや、公民の教科科目の位置づけを確認してもらいたい。細部にわたって対応することにより、思わぬところでよい結果を招いたり、今までの努力が報われたりするのだ。長年指導してきた教員はそのことを積み上げとして自分の中に保持しているので、できるだけ分けていただくような指導をお願いするとよい。

試験場では、たくさん時間があるので、確認用のノートは忘れないでほしい。最後の最後に見たところが出ることはよくあることなのである。

国語でいえば漢文の句形。使役の令は、命令して～させるとき。遣は、遣わして～させるとき。教は、教えて～させるとき。限定のノミは、耳・已・爾 等。

例えば、古文の敬語の重要語。例えば、サ行下二段謙譲の動詞「たてまつらす」は、差し上げる献上するの意味。これが、謙譲の補助動詞になると、お... 申し上げるの意味。天皇がお出かけになるときは、行幸。上皇や皇后がお出かけになるときは、御幸。

などなど、最後に見たものが出るときは、やったと思うだけで、ものすごい集中力が生まれた経験がある。

各教科が終わると、答案の点検や次の教科科目の準備のために約1時間ほどの時間があるのがセンター試験なのだ。この時間を使わない手はない。毎年、合格を勝ち取る生徒たちは、この時間で1教科5点をものにしたとするなら、5教科で25点位上乘せしている計算ができる。現役生だったらなおさらだ。絶対諦めない力は最後の最後にものをいうのだ。625点か650点かの違い。675点か700点かの違い。700点か725点かの違いであると置き換えれば歴然とするだろう。